

「ケア・コロキウムを通して得たもの」

全体発表終了時に「ケア・コロキウムを通して得たもの」を自由に記載してもらい、記載項目を抽出し、同類の記載項目をカテゴリー化した。記述の一部を示します。

大カテゴリー	中カテゴリー	記述例	記述数
医療関係職種 の理解	様々な職種があること	医療ケアにかかわる様々な職種があること(医学)	8
	他職種の理解	それぞれの医療者の立場や役割がわかりました(医療科学)	48
	他職種理解の重要性	たとえ自分が直接かかわる職種でなくとも、患者さんにかかわる人々の役割を具体的に知って、薦められるようにならなければいけない(医学)	10
	根底の基本的理念は共通	考え方の根底には「患者さんのために」「家族のために」「患者さんとその家族が日常生活に戻れるために」という意識があることを互いに認識することができたように思う(看護)	3
何通りもの 視点・考え方	様々な視点	同じ医療について学んでいても、学ぶ入り口が異なると同じシナリオの情報を得ても、視点が全く違うということを知った(看護)	27
	異なるアプローチ	看護、医療科のかたがたと一緒にすることになり、医療者それぞれの考え方、当事者へのアプローチ法があることを知った(医学)	4
	異なる考え方	他の職種の人の意見が聞けたのはよかったと思う。同じ医療のことを学んでいても考え方が違うので面白かった(医療科学)	12
	視野が広がる	自分とは違う分野について勉強している人と話し合うことができ、新しい世界を見ることができたように感じた(医療科学)	12
	多角的な視点の必要性	患者さんを見るとき、いかに多くの視点が必要かを知り、またそれを実行するにはやはりチームで動く必要があると実感した(医学)	1
自分の考えの 気づき		自分がこれまで患者を病変としてしか見ていなかったことに改めて気づいた(医学)	5
自分の専門性の 自覚		他職と協力する際、私自身もプロとして自分の専門に詳しくないといけないと痛感した(医学)	24
多職種連携	多職種連携の体験・感想	他職種の連携の形を体験できた(看護)	2
	多職種連携の面白さ・素晴らしさ	チームで方針を考えていく面白さを感じることができた(医学)	4
	多職種連携の理解	患者を中心としたチームとしてケアの方向性を考えるという体験をして、チーム医療への理解がふかまった(看護)	15
	多職種連携の効果	連携が成功すれば大きなパワーが生まれることを学びました(看護)	20
	多職種連携の重要性	自分だけでは患者の最善の利益を追求できない。医療人すべてと連携を取りチームとして患者に接する大切さを学んだ(医学)	35
	多職種連携の難しさ	多職種が一人の患者にかかわることのむずかしさを学んだ(看護)	4
	歩み寄ること	他職種であっても同じ医療者であるという意識をもって、お互いに歩み寄ることが大切だと思う(医療科学)	1
	役割分担	各人がそれぞれの立場の特性を生かしていかに患者のエンパワメントにアプローチするかヒント(医学)	2
	対等な関係	今まで医師が医療チームのリーダーになるべきという偏見があったが、このコースを通して医療職はみんな対等な関係であることを学べた(看護)	2
全人的ケア	ケアの重要性	疾患の治療だけでなく、その後続くケアにもこれからもっと意識が向くようになったと思う(医学)	11
	全人的ケア	患者さんの病気を診るのではなく、家族との関係も含めて全人的にみるということの難しさと必要性(医学)	3
	1人1人に合わせたケア	患者さん一人一人に合わせたケアができるということ(医学)	2
	患者との連携	患児の親子も「チーム」の一員ではないのかと考えた(医学)	5
	患者の生活背景を考える必要性	患者の生活背景や家族構成を考えて患者と話し合っ治療をおこなわないといけないと思った(医学)	3
	病気以外の問題	患者の抱える問題は病気以外にもあること(医学)	1
	患者の立場に立って考える	意見、考えを患者の立場に立って考えることの大切さと難しさ(医療科学)	8
	患者中心のケア	患者中心の医療を行うために何が必要かについて考えることができた(看護)	8
	目標	現状はこの程度であろうという憶測をして話を進めるのではなく、対象のためにできるベストは何であるかを考える大切さを再認識した(看護)	3
社会資源に ついての知識		知らない職種や施設、サービスがいろいろあったのでそれも知らなければいけないと思いました(医学)	2
コミュニケー ション	コミュニケーションの体験・感想	他学類の学生とのコミュニケーションをたくさんはかれた(医学)	3
	コミュニケーションの態度	他の人の意見を尊重し、素直に受け入れることが前提(看護)	2
	コミュニケーションの方法	チームの関係作りのためのコミュニケーションやより良い討論のための工夫についても学びました(看護)	1
	コミュニケーションの重要性	今後働く上で、様々な職種の人とのコミュニケーションは重要となると思う。そのために自分の意見をまとめてわかりやすく発言することが得られた(医療科学)	5
	コミュニケーションの難しさ	学んできたものが違う相手に自分の考えを伝える難しさを知った(看護)	1
グループ討論	グループ討論の体験	チームの一員として討論を行うことができた(看護)	2
	グループ討論の態度	互いに尊重しながら討論をするという力をつけることができたと思う(看護)	2
	グループ討論の方法	いろいろな人の意見を聞きながら自分の意見を言うタイミングが少しわかってきたように思った(医療科学)	4
	グループ討論の効果	グループワーク自体あまりやったことがなかったが、初めて会う人達との意見交換により物事の側面にも少し目を向けることができた(医療科学)	4
	話し合いの難しさ	1つのテーマを専門の異なるものが話し合うというのは、簡単そうで難しい(医学)	1
共有	考えの共有	自分の考えたことをそれぞれで共有していくことで考えが深まった(看護)	7
	知識の共有	お互いが考えていることや持っている知識を共有することの重要性(医学)	2
	目標の共有	医療者同士が共通の方針、目標を持つことの大切さを学ぶことができた(看護)	7
	問題点の共有	患者さんに関する様々な問題点を共有することができた(医学)	1
エンパワメント		ケアとはできないことを手伝うだけでなく、持っている力を伸ばして発揮させるエンパワメントが何より大切だということ(医学)	7
人間性		医者として人としての社会性が重要だと感じた(医学)	4
シナリオ特有の 学び		介護、緩和ケア、告知、人工呼吸器、乳がん等について	8
一般的な感想		色々な科の人と出会って面白かった(医学)	10

※医学96名、看護64名、医療科学35名のアンケートより356の記述を抽出し48の中カテゴリーに分類し、同類の中カテゴリーをまとめ14の大カテゴリーとした